

平成22年度第3回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成22年8月25日（水）午後5時

場 所 生涯学習センター レストランまいづる

（開会のあいさつ）

【市長】

今日は大変お忙しい中、このような機会を作
っていただき心から感謝をしております。

東京に数年住んでいたときも暑いとは思って
いましたが、今年は特に暑く、大変だと思います。
現在、釧路市では、ぜひこの涼しい釧路で暮ら
してみませんかということで、移住や、短期・
長期滞在という取組を進めておりまして、その
ような中で皆様が釧路に来ていただいていると
いうことは本当にありがたいことで、感謝の気
持ちでいっぱいでございます。



地域の活性化を考えたときに、この地域だけのことを考えないで、北海道、さらに日本というス
ケールの中で広くエリアを見ていきながら、地域の良さというものを見て、知っていただく必要
があると思っております。現在、交流人口という言葉が日本のどこでも出されています。定住人
口であれば減っていくのでまちづくりはもうできないので、交流する方々の人口をカウントして
まちづくりを進めていきたいと思いますというものが、まさに今その時代が来たと思っております。
皆様にはぜひとも、外から見た釧路の仕組みなど、いろいろと話をお聞かせいただき、まちづく
りに生かしていきたいと思っております。

本日はぜひとも実りある時間にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

（自己紹介）

【参加者A・B】

夫婦で釧路に来ています。3年前に浦見にある物件を購入して、自分で全部直して、住んでいま
す。夏場だけこちらにいて、10月になったら東京に戻る予定です。

【参加者C】

30年前に日銀の釧路支店長をしていました。それ以来釧路が大好きになり、夏は7年連続で釧路
で過ごしていて、家内と一緒に約2カ月間滞在しています。私は釧路大好き人間で、少しでも釧
路の役に立ちたいと思っています。昔の知人もたくさん居ますので、楽しく過ごしています。

【参加者D】

私は奈良から来ました。関西は非常に暑く、今までは夏場に北海道で4～5日過ごしていました。
今年の6月に会社を退職して自由になったので、今年は長期滞在しようということで、家内と二

人で来ています。

家内の友人に何回も北海道で長期滞在をした方がいまして、その方の話を聞くと、いろいろなところに滞在したけれど釧路が一番良かったということでした。1カ月間滞在する予定で、今のところ非常に快適に過ごしています。おそらくリピーターになるのではないかなと思っています。

【参加者E】

私は埼玉県から来ました。今回は、7月16日から8月15日まで伊達市に長期滞在して、その後、釧路に来ました。9月15日まで滞在の予定です。

3年前に伊達市に3カ月間長期滞在をしましたが、そのときは、9月になると家内が寒いから帰ろうと言いだしたため、9月20日頃には引き上げました。それ以来、家内は北海道は寒いところだから行かないと言うものですから、それ以降は私1人で来ています。

私は宮崎県の大学の出身ですが、卒業後雪印乳業に入社したので、北海道には知人があちらこちらにいます。

今年は伊達が暑かったです。幸いエアコンがついていましたので、エアコンを効かせていました。釧路に来てみますと、こちら先週などは非常に暑かったのですが、エアコンもない、網戸もない、窓を開けると虫が入ってきまして困っておりました。

【参加者F】

私は今日、飛び入りでの参加です。毎年、定山溪で長期滞在をしていますが、テレビを見てみると釧路の長期滞在のことが出ていて、市役所に電話をすると今日滞在者の集まりがあるということだったので2・3日の予定で来ています。

【参加者G】

神奈川県小田原市から来ました。昨年こちらを訪れ、空気や自然にとっても感動しました。その後インターネットで調べて長期滞在があることを知り、数カ月間、長期滞在をすることになりました。もっといたいのですが、年齢とともに冬はちょっと厳しいかなと思い、9月か10月中旬には引き上げる予定です。

【参加者H】

私は40年前の長期滞在者です。この地で感動して、移住してしまいました。

【参加者I】

神奈川県から4月中旬に移住しました。友人も親戚もいませんが、アパートに住んでいます。移住して4カ月です。

なぜ釧路に来たかといいますと、ずっとフルタイムで仕事をして定年退職をしましたが、全力疾走で長いマラソンをやらされたような気がしていました。退職したとき、子供達もそれぞれ自立したので、そばにいてとやかく口出しする必要も無いし、どこに住んでも、何をしても自由だという開放感がありました。移住をしたらどこかなと思ったときに、言葉が通じないところはやはり困ると思い、釧路に決めました。

今は昔と違って暖かいですし、洋服などの装備を備えれば大丈夫かと思い、大胆にも思い切って引っ越してしまいました。まだ冬は経験していないのであまり偉そうなことは言えませんが…。移住した際に、転居の手紙を約90人に出したのですが、返ってきた反応は、大部分が「とんでもない」「おどろいた」とか、「なんで釧路？」といったもので、「いいね」と賛成してくれた人は、5人もいませんでした。中には、「三ヶ月もしないうちに泣いて帰るよ」という方もいました。近々、友人がなぜ釧路がいいのか見にくるというので、私が気に入った湿原などを中心に案内したいと思います。

この機会ですから、市長さんにひとつだけお願いがあります。夏の話題ではないのですが、今年の冬は道路にわだちが多くできて凍りついていましたよね。今度また雪が降ってあの状態だと、家に閉じこもらざるを得ないものですから、除雪をよろしくお願いします。

【市長】

去年はたくさん雪が降りましたが、基本的に釧路は雪が少ないところです。大雪や除雪などに慣れていないという面はありますね。

【参加者J】

生涯学習センターから歩いて10分位のところに居着いてしまいました。釧路に来てから丸7年になります。出身は仙台で、現役の際はNHKに勤務していました。東京の本部勤務を中心に、全国あちこちを転勤して、20年近く前に2年間の釧路勤務をしましたが、全国あちこちを歩いた中でも、釧路のまちが非常に印象深く残りました。景色や涼しさ、食べ物も美味しい、それに人の温かさというものを身をもって体験しまして、退職したら仙台を通り越して、津軽海峡を渡り、釧路で骨を埋めようと思い7年前に来ました。

その後、機会があって移住の話をしていただいたときに、市役所に大変お世話になりました。役に立つのであればと思い、「移住者のガイドブック」の原稿を「釧路大好き人間」というタイトルで書かせていただきました。よく釧路の気候を「冷涼」な気候といいます。冷涼というと今ひとつイメージが良くないなと思っていました。すると、蝦名市長が「清涼」な気候と言われ、的を射ているなと思い、原稿にもそのように書かせていただきました。

今、キャッチコピーを考えている人もいらっしゃるのですが、この涼しい夏の釧路はさわやか別天地だというようなキャッチコピーでもできればいいかなと思っています。

冬の寒さが心配だという声もありますが、やはり寒いですよ。ね。「しばれる」と言いますが、マイナス15度前後くらいの寒さになり、外はガチガチになり大変です。ただ、家の中は本州とは違った造りになっていますから、ランニングシャツ一枚でいられる暖かさですね。また、雪は少なく、歳をとってくると雪かきが大変になりますから助かっています。

これから迎える秋も、とてもさわやかな青空が続きます。ぜひ、夏だけではなく秋も冬も体験していただき、タンチョウの舞う姿も見て欲しいですね。

【参加者K】

私は京都から来ました。釧路の大学を卒業後、就職のために京都に行きました。4年前に関西釧路会を作り、蝦名市長にも来ていただき、そのお礼ということで今日市役所に行ったら、この会

場に来るということだったので、私もお邪魔させていただきました。

長期滞在は、8年前に100日間、次の年は50日、その後は1週間、10日程度で続き、今年は3泊となっています。短くなった理由としては、釧路に来てもなかなか知り合いがないということがあります。昼間は図書館に行って本を読んだりしますが、夜になると一緒に飲みに行ったり、カラオケに行ったりする人もいなくて寂しいので、生活の拠点を京都に置いていた方が良くないと思ひ、京都にずっといることを決意しています。今年は暑いので、釧路にもっと長く居たほうが良かったなと反省しています。

【参加者L】

兵庫県から主人と来ました。私の北海道との付き合いというのは、40年前にリュックを背負って、友人と2人で3週間北海道を旅したところから始まりました。そのときに北海道のことが大好きになり、できれば北海道の人と結婚したいと思うくらいだと言っていたのですが、ご縁がなく、このようになっているのですが…(笑)。

その後もずっと北海道と縁はありませんでしたが、6年くらい前に、仕事の都合で5年間イギリスに住んでいまして、暑くない夏というものを経験してしまいました。元々西日本の生まれですから、夏は蒸し暑くて、蚊がたくさんいて、セミが鳴いてとっていましたが、全然そうではない夏というものを経験してしまったら、西日本の暑さが余計に耐え難いものを感じました。これを何とかしたいと思いつつも家庭の事情などで、できないでいました。でも、一度釧路に来て、レンタカーを借りて、1週間道東を回って涼しい夏を味わってしまいました。その後、また涼しい夏をと思ひ、インターネットで調べて、去年初めて45日間滞在しました。そうすると予想通り、暑くない夏があったのです。緑がいっぱいで、お魚も美味しいし、乳牛もいっぱいいて、イギリスの田舎みたいな感じでした。日本にもこんなところがあったんだと改めて思ひ、大好きになりました。今年もぜひと思ひ、7月24日から9月15日まで滞在します。

【参加者M】

Lの主人です。残念ながら北海道出身ではありませんが(笑)、非常に北海道を気に入っており、できるだけ毎年来たいなと思ひています。

(長期滞在のきっかけ、情報の入手方法について)

【参加者A】

北海道の場合、伊達市が北海道の中でも暖かいという売り込みをしています。釧路の場合は涼しさが魅力で、あとは本州の方にそれをどう伝えるかということです。やはりインターネットだけではダメだと思います。みんな、どこが移住先として良いかと探しているのです。

私は出身が根室なのですが、根室の定年退職者は暖かいということで伊達に行きます。釧路市民でも、結構伊達に行っています。本州に行くのは嫌だけど、伊達なら暖かいからといって行くのです。それを逆手に取るしかないのではないのでしょうか。釧路の夏は涼しいということで。

【市長】

伊達や苫小牧、釧路などの太平洋側の地域は雪が少ないですね。せっかく北海道に来たら、庭のある花壇もある家に住みたいということにもなりますが、庭までの1メートルの雪かきが大変です。これ以外の地域は、朝起きて雪かきをして、昼食を食べないで雪かきに戻って、夜もう一回雪かきをしなければならないということもあるのです。

今年のように猛暑になると逆にプラスだという話です。昔は寒いのがマイナスでしたよね。

【参加者J】

寒いとか涼しいということマイナスのイメージがあるのでしょうかね。北海道に住んでいる人は、暖かさを望むので、観光旅行には沖縄に行く人が一番多いのです。逆に沖縄の人は寒い北海道はどうなのかなと思うのでしょうかね。だんだん温暖化で暑くなっているので、関心がこちらの方に来ていると思いますよ。

北海道とひとことで言っても、北海道は広いので、夏も冬も日本海側や太平洋側で全然違います。こういった涼しさが、釧路独特のものだということをもっと強くアピールする必要があると思います。本州では「北海道」というと札幌の情報が多いんです。全国でTVを見ている人は、札幌の情報を見て、北海道というのはこういうところだと思ってしまうのです。

【参加者C】

飛行機代が高いと友人は言います。それはしょうがないとして、どうしてカーフェリーがなくなってしまったのかということです。やはり車があるといいので、カーフェリーが苫小牧ではなく、釧路にあれば、最初のハードルが低くなるのではないかと思います。

【参加者D】

私は今回、敦賀から苫小牧へのカーフェリーで22時間かけて来ました。関西だと舞鶴と敦賀から苫小牧に出ています。

情報の出し方ですが、私は友人から話を聞いて市役所に直接電話をし、非常に親切な対応で事前に情報をいただき、長期滞在を決心しました。注文としては、事前にいただいた情報は釧路の観光資源を主にした情報や、長期滞在のためのマンスリーマンションなどの住居の情報でした。ほかに欲しかった情報としては、医療機関や買い物などの日常生活に関する情報ですね。マイカーを持っていますが、バスにも乗りたいので、バス会社2社の路線図や時刻表をもらったのですが、こういうものも事前にいただくとずいぶん違うと思います。

【市長】

東北海道の中では、医療機関が一番充実しています。総合病院が3つありますし、そういった意味では安心かと思います。

【参加者D】

そういった情報が事前にあるといいですね。

【参加者G】

ドクターヘリもきちんと用意されていますしね。

【参加者 I】

医療の話が出ましたが、健康づくりという点では温水プールも何か所もありますし、人口の割にはすごく充実していると思います。釧路湿原の遊歩道にも、その日の気分や体調に合わせて、思い立ったら気ままにぶらっと散策に行けます。冬場はともかくとして、これは一年中遊べると感じました。

また、来てから思うのですが、新聞の折り込みチラシを見ると、介護施設がとても安いと感じます。3割くらい安いと思いました。厳密に首都圏と内容を比較した訳ではないですが、チラシを見て安いと思いました。

話はちょっと違いますが、寒いということについて、釧路の皆さんは引け目に思っているのですよね。娘がロンドンから釧路に来て「ロンドンの夏と同じだ」と言っていました。釧路に来ることには大反対だった娘が「お母さんの言うことがなんとなく分かった」と言い、釧路湿原に連れて行ったら大喜びしていました。ロンドンの冬も釧路ほどは寒くならないですけど、そんなに暖かいわけではありません。なぜ釧路の皆さんは寒いことを引け目に思っているのかと思います。釧路の人に移住してきたという話をすると「なんで!」と一人や二人ではない人に言われます。何で来たのか気が知れないといった感覚で言っている気がします。今はいくらでも暖かい洋服で補えますし、寒さに対してそんなに引け目に思う必要はないと思います。

【参加者 C】

以前、气象台に聞いた話では、全国的に平均気温が上がっている中で、釧路は全国平均以上に上がっているということです。特に冬の温度が上がっているのです。ですから、冬の寒さの驚異というのは少し前の話ですね。

【市長】

5度は間違いなく上がっていると思います。昔は春採湖が凍って、湖の上を歩いて帰る人がいました。今は氷の上に乗れませんが。

【参加者 H】

昔、私が釧路に来た頃は、マイナス20度以下ということは何日かありましたからね。

【市長】

100年間で南に120キロくらい下がったくらいの温度は上がっているのではないのでしょうか。今は下がってもマイナス15度くらいですからね。北海道の人の方が寒さに弱いところもあります。

【参加者 A】

それで寒さが引け目に感じる部分はあるのでしょうかね。

【市長】

北海道の歴史や文化というのはまだ短いものです。釧路で150年、この辺で一番長い厚岸でも210年くらいの歴史です。そしてこの地域は漁業が盛んで「故郷に錦を飾る」という言葉があるように、何らかで成功して戻っていきたいという方々が、多かったものですね。そういった世代の人がいたときに、自分達のまちのことを良く言わないのが格好いいといった感覚を、私も聞くことがあります。ところが、今の50歳くらいからもっと下は逆ですよ。どんどん自慢なんかもしていますけど、なかなかまだその声は届いていないですね。



【参加者I】

アラスカや北欧を旅行したときに、15人くらいのツアーでしたが、半分が中高年の女性で、ひとりでの参加が半分です。中高年の女性はとても元気です。行動的で、南極や北極にも行きかねない人がたくさんいます。ですから、アピールの仕方でも興味を持ってもらえると思います。

（釧路を訪れる前と後のまちの印象などについて）

【参加者M】

観光で訪れるのと長期滞在で来るのはちょっと違って、普段の生活についての情報が必要です。病院やスポーツジムがあるかといった情報や、買い物の利便性、バスやタクシーの交通などの情報がたくさん欲しいところです。そういった情報をたくさんいただくとありがたいのですが、いただくのは既に結構知っている観光の情報のことなどでした。

【参加者E】

長期滞在をしている人間にしたら、グルメなども非常に楽しみです。でも、どこに行ったらいいのか分からないのです。伊達市ではグルメ通りという通りがあり、中華を食べたいときはこの店、すし屋さんはこの店、といったものがあるので非常に便利です。これは市役所のような行政が個別のところを指定するというわけにはいかないでしょうが、口伝えでも何でもいいので、中華ならこの店がいい、などの地図のようなものがあれば毎日の生活に便利で助かります。

また、もらった地図には全国規模のスーパーは出ていますが、普段の生活に使うようなお店が地図に載っていないのです。長期滞在者向けの地図には大規模なお店より、日頃使う牛乳やパンを買いに行くようなお店を入れて欲しいです。

あと、伊達市も一緒でしたが、滞在者向けの住宅にはトイレの洗浄便座もついてなく、窓には網戸もありませんでしたが、慣れてしまうとトイレの洗浄便座がないと困るのです。

【市長】

個人の家は別ですが、アパートなどにはついていないですよ。アパートには東京方面でもついていないのではないのでしょうか。

【参加者 L】

私も滞在先を決めるとき、トイレの洗浄便座の有無は大きな決め手です。今回は、お風呂とトイレが別になっているというのが魅力で決めたようなところもあるので、そういった部分も考えていただきたい。

【参加者 E】

今はトイレの洗浄便座も贅沢品ではなく必需品ですからね。

【参加者 D】

ちょっと違う話ですが、私はマイカーで来て車で市内を走っていますが、道路標識についてちょっと感じる場合があります。地図を見ると「〇〇通り」と書いていますが、実際に走っていると、ここは〇〇通りだというものがほとんどありません。また、非常に迷わされるのが、交差点の信号に「〇〇町」といった町名の看板がありますが、それぞれ4つの信号の町名が違ってきます。これはとても混乱します。

【参加者 I】

あれはすごく迷いますよね。

【市長】

整理整頓がされないできたためかと思われまね。

【参加者 I】

なんとかして欲しいものです。

昨日釧路短大の佐藤先生から受けた講義では、釧路というまちはよそから来た人間の意見を取り入れながら発展してきたまちだと言っていましたので、ぜひ蝦名市長にもこの声の反映をお願いします。

【参加者 D】

標識のことは別として、釧路のまちは緑が多いしきれいですね。また、公園も大きなものから小さなものまで多くて、非常にきれいでいいまちだと思います。

【参加者 L】

私たちはまちなかをよく歩いて移動しますが、交差点に立っているだけで車が停まってくれません。すごい歩行者優先だと感動しました。関西では横断歩道に立っていても車がビュンビュン走っていき、考えられないことです。

【市長】

北海道は、交通事故死ワーストワンといったこともありますから、そういった意味で、みんなが

しっかりしましようというものが根付いてきているのではないのでしょうか。車社会ですしね。

【参加者D】

路上駐車なんかも少ないと思います。関西になんか行ったらすごいですからね。

【市長】

まだまだ多いと感じることもありますね。

【参加者D】

非常に少ないと思いますよ。

○体験交流メニューについて

【参加者G】

小田原から来た友人を湿原に案内したのですが、普通のサンダルで行ったら、非常に険しくて、それを知らずに遊歩道を歩き、4人で行って4人全員が足を擦りむいてしまいました。平らなところをイメージしていて、初めての経験で深い谷地があるとは思ってもいなかったもので、降りるときは軽やかに降りて行ったのですが、登る道は大変でした。

【市長】

カヌーやホーストレッキングをされた方はおりますか？

【参加者D】

私はカヌーをしたいと思っているのですが、どこに行けばできますか？

【市長】

塘路湖が良いのではないのでしょうか。

【参加者M】

高いですね。9千円します。1時間で4千5百円です。

体験メニューとかいうよりも、基本的には気候がいいので、ただいるだけで満足しています。

【市長】

釧路市動物園には行きましたか？

【参加者L】

行きました。

【参加者D】

今日、動物園に行ったのですが、アムールトラのタイガが去年の今日死んだということで一周忌だったようです。

【参加者J】

このところ、動物が釧路のPRをしてくれていますよね。タイガとココアもそうだし、ラッコのクーちゃんもそうだし。経済効果は大変なものではないでしょうか。

【参加者A】

話は変わりますが、今回の釧路で撮影された映画の「ハナミズキ」ですが、地元では見るでしょうけど、本州で見るかというところ、若い人は見るとしても、この道東に来るような方が見るかとなると微妙なんですよ。

年寄りにはヒマだしお金があるから来られますが、若い人となるとどうかと思います。

【市長】

私たちの考えでは、いろいろな観光地を訪れてもらう方がウエイトが高いのかなと思っていますが、そうでもないのでしょうか。

【参加者M】

春採湖なんかは近いから、毎日でも見えていますよ。夕日もしょっちゅう見に行きますし。

【参加者L】

とにかく、このまちの魅力というのは全部が涼しいことなのです。ですから、それをもっともっと自信を持ってアピールしないと本当にもったいないと思います。西日本はいくらクーラーがあっても、一歩外に出たら36～37℃の暑さなんですよ。釧路は、まちじゅう全部が涼しい、こんなところはほかに日本にはないのです。ですから、これは本当に自信を持ってアピールしたらいいなと思います。

【参加者J】

全市冷房完備の天然クーラーですね。

【市長】

行政では、どういうところを見せなければいけないとか、そっちのほうに労力を使いますよね。

【参加者L】

なにかすれ違っていますよね。

【参加者M】

私たちは観光ではなく、滞在ですから。

【参加者L】

体験メニューなどは、来る人は知っています。来ていない人にPRするのだから、観光のほかに普通の生活に必要なことなどをもっと発信する必要があるのではないのでしょうか。

【参加者D】

長期滞在をする人に市民としての認証するような、サービスのようなものを受けられるようなことがあると良いのではないのでしょうか。

【参加者E】

私は毎日図書館に行っています。昨年作ったカードを持って行ったら、「あなたが本当にそこに住んでいるという証拠の手紙かハガキか、何でもいいので持って来てください」と言われました。私は先日来たばかりなのでありませんし、その辺は厳しいなと思いました。伊達市では私の名前を言っただけで、3年前に利用していますねと利用券をぱっと出してくれたんですよ。

【参加者L】

でも図書館の対応はものすごくいいですよ。今まで行った図書館で一番ですね。あんな素晴らしい対応をされた図書館はありません。

○地域ブランドについて

【参加者I】

釧路って魚介類しか特産品ってないんだよね、ということをほかの人から言われますね。ほかにもおいしいものがあるよと言いますが、そういうイメージがついていますね。

【参加者M】

野菜なんかも結構ありますよね。

【市長】

阿寒などでも採れますが、絶対量が少ないのですよね。例えば、メロンでも弟子屈町の摩周メロンというものがありますが、数が少なくてなかなか食べられません。牡蠣は厚岸の牡蠣が有名ですが、隣町の釧路町の仙鳳趾（せんぼうし）という所で採れる牡蠣が、東京なんかでは幻の牡蠣と呼ばれるくらいの扱いになっているのです。

【参加者I】

私の食べ物に詳しい友人は仙鳳趾の牡蠣が食べたいと言っていました。東京では1個650円するといいます。

【参加者G】

ししゃもは高いのですか？

【市長】

そんなに高くはないですよ。

ししゃもは、日本で千トンしか取れないのですが、釧路港付近で5百トンしか取れません。これしか流通していないのです。

釧路では、昔、133万トンもの魚が獲れていました。そのときに、ししゃもなども揚がっていたのですが、処理や売る、どこかに流すという、つまり原料をどこかに供給するという発想でした。



ですから、釧路や十勝のししゃもが、鶴川町で売られていたのです。そこで鶴川のししゃもが有名になってきましたが、原材料は釧路と十勝なのです。

そして、133万トンの漁獲量のうち、約100万トンがイワシでした。当時、釧路ではイワシは食べるものではないというイメージでした。しかし、そのとき東京ではイワシが800円で売っていたのですよ。そういう、あまりにも獲れすぎた時期があったので、そこでブランド化とかに、なかなか進まなかったのです。

そこで今ようやく、魚のブランド化をしています。最も価値の高い、ししゃもですとか、トキシラズ、さんま、イクラなど、ブランド化して一年間を通して、良いものの価値を高めていきたいと思いますというのが、今、取り組んでいるところです。

昔はたくさん獲れていたのですよ。たくさん獲れているときに、付加価値をつけることを考えるのはなかなかしませんよね。いいときというのはなかなか考えないものです。

魚を触るのがイヤという人も多いようです。東京の方では、魚の切り身が真空パックで売られていると聞きます。それであれば、釧路の魚を最初から真空パックにして出したほうがいいのではとも思います。こちらにしたら、一匹まるごとの方がインパクトがあるからと思っても、もらった方が迷惑だったら困りますからね。

【参加者L】

やはり生鮮品は、主婦としては食べやすい形、料理しやすい形で流通されているのがありがたいので、冷凍や真空パックだとありがたいですね。台所も狭いですしね。

【市長】

まちなかでいろいろと教えてもらったりしますと、生産地としてのポテンシャルも上がっていきますのでありがたいと思います。

【参加者I】

私の感想としては、釧路のお店の人はとても正直すぎると感じます。お店によっては、愛想もないし、売る気が見えないのです。でも、ちょっと話すと、売らないというつもりではないと感じたりします。店にあるたくさん商品のうちどれが売れるのかと聞くと、これはあまり売れないという感じで、非常に謙虚と感じます。たまたま何かの時にその辺の感想を話したら、そんなに

頑張っ、ガツガツして儲けようとは思っていないという方もいて、市役所の方は市長を始めとして熱くなっているのに、商店の方はみんながみんなガツガツしていませんよね。釧路の方は正直なのかなと思いました。

お店の女性の方は気さくで、親切でいろいろなことを言ってくれているというのは分かるのですが、男性はそこらへんが不器用なんでしょうね。私も気持ちを測りながら対応してしまいます。

首都圏から来た人間から見ると、お店の方はがつつしていないと感じます。

この人は釧路の人にしては珍しくしゃきしゃきしているなと思うと、千葉で何年か働いてきたという人だったりします。釧路の人はおっとりしているような気がします。

【参加者L】

おっとりしているというのは、買う側としてはすごく住みやすい感じがします。まち全体がとても優しいと感じます。

（市長あいさつ）

【市長】

今日は本当にありがとうございます。こうやって釧路に来ていただいて、いろいろなご意見をいただくというのは、本当にありがたいことでもあります。いろいろな視点から見た、皆様からいただいたものは、釧路にとってプラスになるものでございますので、いろいろな場面でお話する機会を作ってお聞きしたいですし、また市の担当の者に、こんな話があるということをお話いただければ、大変ありがたいと思っています。

9月の3～5日には「釧路大漁どんぱく」が開催され、4日には道内最大の三尺玉の花火も打ち上げられます。釧路川の河口で行われますので、ぜひともご覧いただきたいと思います。

本日はいろいろな貴重なご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。